

日本海学 シンポジウム

「日本海の食 — 富山からの視点」

令和8年 **1月31日** **土** 13:00~16:00

パレブラン高志会館 カルチャーホール
(富山市千歳町1-3-1)

入場無料

要事前申し込み

基調講演

「日本海の食と富山 — 伝統と未来への提言」

講師: **秋道 智彌** (山梨県立富士山世界遺産センター所長)

パネルディスカッション

「日本海の食 — 富山からの視点」

コーディネーター: **武田 佐知子** (大阪大学名誉教授/日本海学推進機構会長)

パネリスト: **秋道 智彌** (山梨県立富士山世界遺産センター所長)

経沢 信弘 (郷土料理研究家/料理人)

中井 精一 (同志社女子大学表象文化学部日本語日本文学科教授)

山本 茂行 ((公財) 富山市ファミリーパーク名誉園長/日本動物園水族館協会会長)

[50音順]



2019年10月に「世界で最も美しい湾クラブ」の世界総会が日本で初めて富山県で開催されました。

「世界で最も美しい湾クラブ」とは…

1997年にドイツ・ベルリンで設立されフランス・ヴァンヌ市に本部を置く非政府組織です。世界で最も美しい湾クラブには、世界遺産のフランス・モンサンミッシェル湾やベトナム・ハロン湾など世界の名立たる湾が加盟し、湾を活用した観光振興や資源保護、そこに暮らす人々の伝統継承や景観保全を目的とした様々な活動が行われています。

日本海学 シンポジウム

「日本海の食 — 富山からの視点」

令和8年1月31日(土) 13:00~16:00

パレブラン高志会館カルチャーホール
(富山市千歳町1-3-1)

入場無料



※公共交通機関をご利用ください。

※富山駅より徒歩10分

お申し込み方法

申込期限：1月28日(木)まで

- ・お申込みフォーム
- ・メール
- ・電話
- ・FAX

いずれかの方法でお申込みください。

●お申込みフォーム

Webページはコチラ→

<https://forms.office.com/r/jVVtHCbiak>



●メール・電話

氏名、連絡先(電話番号・E-mailアドレス)を明示のうえ、お申込みください。

●FAX FAXでお申込みされる方は、こちらをご活用ください。

氏名	フリガナ
連絡先	TEL
	E-mail

お寄せいただいた個人情報は、本シンポジウム運営および日本海学推進機構からの関連行事案内のみに利用し、法令に基づく場合を除き第三者提供は行いません。適切に管理し、必要期間経過後は安全に廃棄・削除します。

お問い合わせ先

日本海学推進機構

〒930-8501 富山市新緑曲輪1-7 (富山県多文化共生推進室内)

TEL 076-444-3156 FAX 076-444-9612 E-mail: adm@nihonkaigaku.org

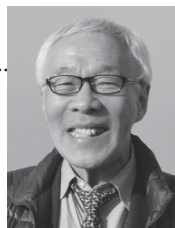
基調講演 13:10~14:00

日本海の食と富山 — 伝統と未来への提言

講師：秋道 智彌

(山梨県立富士山世界遺産センター所長)

前・日本海学推進機構会長。京都府生まれ。京都大学理学部動物学科卒業、東京大学大学院理学系研究科人類学専攻博士課程修了。理学博士。国立民族学博物館民族文化研究部長、総合地球環境学研究所副所長を経て現職。専門は生態人類学。海洋と人類の多様な関係を多角的な視点から調査・研究。近著に『海神と霊性』(法蔵館 2026)、『海と陸のはざまーアジア・太平洋の干潟文化を探る』(共編著、勉誠社 2025)、『富山の食と日本海』(共編著、桂書房 2025)、『富山湾—豊かな自然と人びとの営み』(共編著、桂書房 2020) ほか多数。



パネルディスカッション 14:15~16:00

日本海の食 — 富山からの視点

コーディネーター：武田 佐知子

(大阪大学名誉教授/日本海学推進機構会長)

東京都生まれ。早稲田大学第一文学部卒、同大学院修士課程を経て東京都立大学大学院博士課程修了、文学博士。大阪外国語大学教授として、日本古代史・服装史・女性史を専門に、衣服を身分・民族標識として捉える独自の方法論で国家形成・国際関係・ジェンダー・王権論に新機軸を拓く。著書に『古代国家の形成と衣服制』(吉川弘文館、1984)、『信仰の王権 聖徳太子』(中央公論新社、1993)、『衣服で読み直す日本史』(朝日新聞社、1998) など。受賞にサントリー学芸賞、濱田青陵賞、紫綬褒章。博士育成や女性学研究会の組織化など教育・社会貢献にも尽力。



パネリスト：秋道 智彌 (山梨県立富士山世界遺産センター所長)

パネリスト：経沢 信弘 (郷土料理研究者/料理人)

富山県魚津市生まれ。家業の料理店で育ち、1985年に大阪・北新地、1990年に米ニューヨークで研鑽を積む。1994年の帰国後はモンゴル、チベット、ネパール、中国雲南省、台湾などアジアの少数民族家庭を訪ね歩き、食文化を調査。同時に日本各地の郷土料理も研究し、学会発表を重ねてきた。著書に『古代越中の万葉料理』(桂書房、2017)、『大門そうめん』(桂書房、2019)、『富山の食と日本海』(共編著、桂書房、2025)、『とやまのすしはなぜ美味しい』(寄稿、北日本新聞社) など多数。現在は講演・執筆を中心に活動している。



パネリスト：中井 精一

(同志社女子大学表象文化学部日本語日本文学教授)

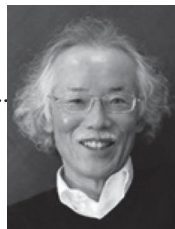
奈良県生まれ。大阪外国語大学大学院修了、博士(文学)(大阪大学)。天理大学附属天理参考館学芸員、富山大学人文学部教授を経て、2021年4月より現職。研究分野は、方言研究および社会言語学で、富山県および日本海沿岸地域はもとより、かつて多くの日本人が移住した東アジア、南米、オーストラリアなどでフィールド・ワークを続けている。近著に『富山湾—豊かな自然と人びとの営み』(共編著 桂書房 2020年)、『地図で読み解く関西のことば』(共編著 昭和堂 2022年)、『日系』をめぐることばと文化』(共編著 くろしお出版 2022年)、『富山の食と日本海』(共編著 桂書房 2025年) などがある。



パネリスト：山本 茂行

(公財) 富山市ファミリーパーク名誉園長
(日本動物園水族館協会会長)

里山・動物をテーマに、人と生き物の在り様を発信しつつ自産自消・自立生活を送る。近著に『食』の完結—自産自消と食文化の継続—『富山の食と日本海』(分担執筆 桂書房 2025)、『超える力』『ピオストーリー』37 (誠文堂新光社 2022)、『ライチョウから埋没林まで』『富山湾 豊かな自然と人々の営み』(分担執筆 桂書房 2020)、『神の鳥ライチョウを守る』『ピオストーリー』26 (誠文堂新光社 2016)、『動物園水族館をいのちの博物館に』『世界』844 (岩波書店 2013)、『動物園というメディア』(共著 青弓社 2000) など。は高岡で作業を継続中。主な著書に『輪島漆器からみる伝統産業の衰退と発展』(単著、晃洋書房 2020年)、『産業観光と地方創生』(共著、筑波書房 2023年) など。



HP▶ <http://www.nihonkaigaku.org/>

